

# 教育と文化

## 郷土の宝・大野岳『タイワンツバメシジミ』 市郷土研究会個人研究発表会

2月17日、生涯学習センターで市郷土研究会会員個人研究発表会がありました。平成29年、南波多町の大野岳山頂付近の繁殖地が市天然記念物に指定されたタイワンツバメシジミ。その研究成果を、保存会会長の松本輝彦さんが発表。参加者は生態や保護活動などについての詳しい解説を興味深い様子で聞き入り、理解を深めていました。



↑タイワンツバメシジミの生態について説明する松本さん

## 自治体図書館は地域情報の宝庫

### 片山善博市民図書館名誉館長が講演

2月18日、市民図書館名誉館長である片山善博さん（早稲田大学公共経営大学院教授）が、『図書館が社会を潤す』と題し、市民センターで講演しました。片山さんは、本を読む習慣のある人が少なく、なっていることを危惧し、子どもの頃の読書体験を交えながら、コミュニケーション能力を養う読書の大切さや、地域情報の宝庫である自治体図書館の必要性を訴えました。



↑「自治体の図書館には地域の情報を後世に残すという重要な役割がある」と語る片山さん

## 郷土の文化財

伊万里湾の歴史シリーズ⑨

●問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 23 3 1 8 6

### 浦之崎造船所（川南造船所）

山代町にある浦ノ崎駅手前の海岸に、浦之崎造船所（川南造船所）がありました。当初は昭和8年（1933年）にソーダ（炭酸ナトリウム）を生産する工場として建設されたもので、伊万里湾における工場建設の先駆けとも言えるものです。

改めましたが、昭和30年（1955年）に閉鎖。その後は廃墟となっていました。平成23年（2011年）に解体・撤去されました。現代まで続く伊万里湾開発の歴史の1ページとして捉えられるものです。

昭和12年（1937年）には、隣接地にガラス工場が建設され、第二次世界大戦中の昭和15年（1940年）9月に、ソーダ工場、ガラス工場ともに造船所に転換しました。

昭和18年（1943年）には軍需工場に指定され、輸送艦や、特殊潜航艇『海龍』が作られました。軍需工場であったため、連合軍の攻撃目標にもなりました。

戦後は、浦之崎造船所から伊万里湾重工業と名称を



↑昭和23年（1948年）ごろの浦之崎造船所